



夏季休暇期間における家畜伝染病の防疫 対策を徹底しましょう！

本年7月、兵庫県で国内87例目の豚熱(CSF)が発生しました。また、2月にシンガポールで初めてアフリカ豚熱(ASF)の発生が確認され、5月に韓国で4年ぶりとなる口蹄疫(FMD)の発生が確認されています。近隣アジアやヨーロッパ各地で家畜伝染病の発生が続いており、日本への侵入リスクは依然として高い状況です。

これから夏季休暇を迎えるにあたり、畜産関係者は以下の防疫対策を徹底してください。

農場を守るために

① 海外渡航の自粛・肉製品の国内への持ち込み禁止

② 病原体の持ち込みの防止

- ・必要のない者を衛生管理区域や畜舎に立ち入らせない。(看板の設置等)
- ・不要な物を持ち込まない
- ・衛生管理区域もしくは畜舎に立ち入る場合、又は物を持ち込む場合には、手指の消毒、専用の作業着と靴の着用、物品の消毒等を行う
- ・消毒薬の適切な濃度での使用と定期的な交換
- ・野生動物の侵入防止対策の徹底(防護柵・防鳥ネットの設置、周辺の除草など)

③ 毎日の健康観察

④ 異状の早期発見・早期通報

裏面もあります



飼養している家畜に異状が見られた場合には、直ちに獣医師、または家畜保健衛生所にご連絡ください。

十和田家畜保健衛生所

電話 0176-23-6235(平日) 携帯 090-6453-7023(休日・夜間)

ホームページ

十和田家畜保健衛生所

検索

疑わしい症状は直ちに通報を

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、後に泡状のよだれを流したり、口、ひづめ、乳房に水疱（水ぶくれ）ができるのが特徴です。

口蹄疫の症状

写真出典：宮崎県



泡状のよだれ



口蓋のびらん

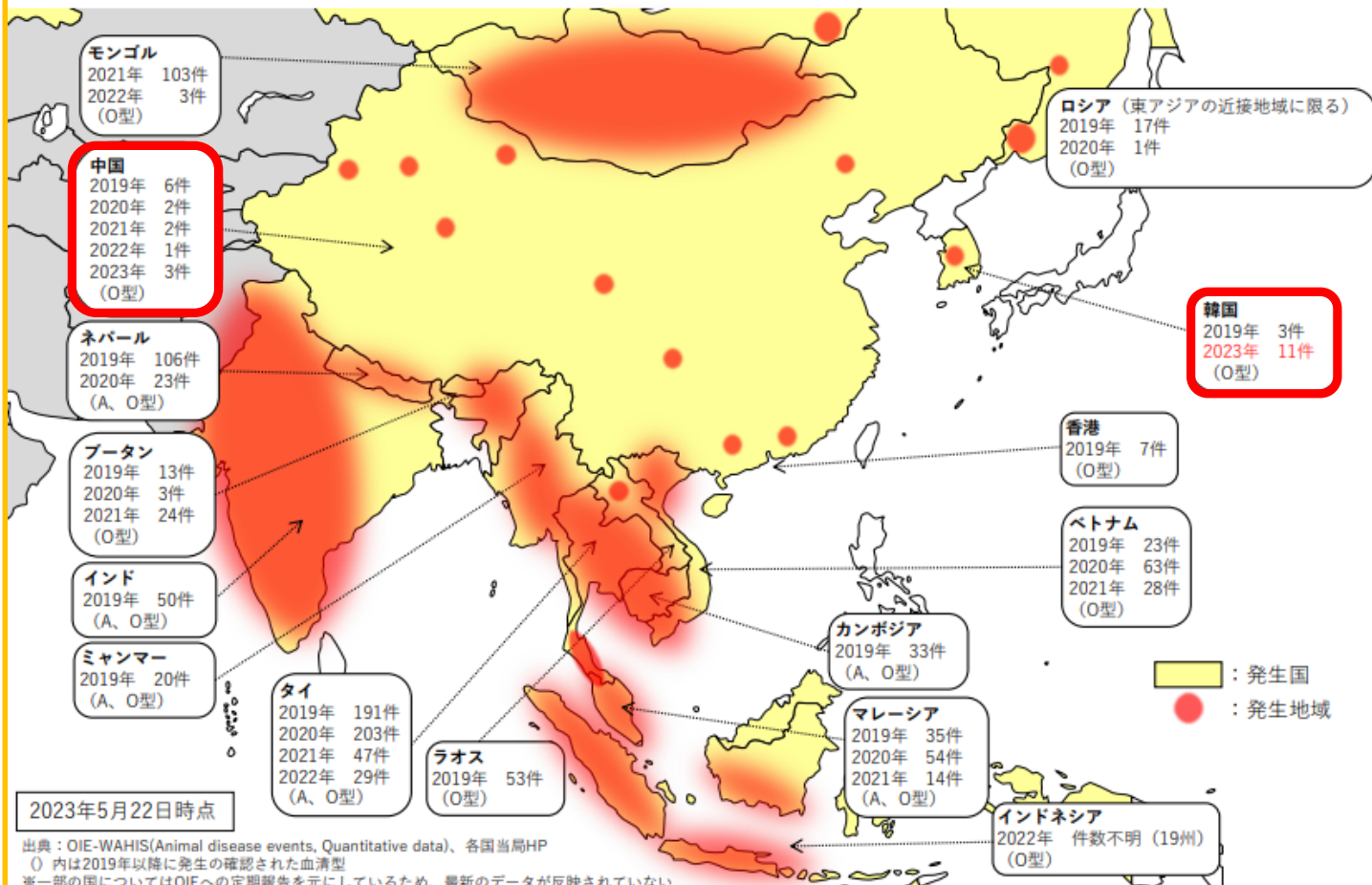


舌の水疱



乳房、乳頭の水疱

アジアにおける口蹄疫の発生状況（2019年以降）



出典：農林水産省HP